
男とか女とかそういう問題ではない

上村忍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

男とか女とかそういう問題ではない

【Nコード】

N52320

【作者名】

上村忍

【あらすじ】

運命の人と別れた人間の狂喜

（前書き）

さらっと読んでみてください。一読で意味がわかったあなたはすごい。作者も久しぶりに読んだら、意味がわからなかった（笑）

はい、そうです。

ええ、確かにあのときは死のうと想ってました。

いや、死ぬしかないと思ってました。

…だってそうでしょ？

何年一緒にいたと想ってるんですか？

あの4月7日から、7年経った8月9日まで、あの人と共に過ごした日々だったんですよ。

いえ、時間が問題ではないですね。

…うん、そうだ。

何十年一緒にいても、その日々が薄っぺらい倦怠期の夫婦のようなモンではなかったんですよ。

毎日が濃密で、甘く、辛く、発見があり、落胆があり、ときめきがあり、迷いがありました。

背中を向けて寝る日も、今考えると幸せだったと言えるんでしょう。

今じゃ、このベッドは大きすぎますしね。

寝返りがね、打てなかったんですよ。

寝相が悪い人でね、いつも私が端に追いやられて。

布団もね、全部持っていつてしまっんですよ。

そうそう、毎日の食べるものでもよくケンカしました。

私は朝はパン党なんですよ。ええ、あの人はご飯党でしたね。

食卓にはいつもパンとご飯がありました。

それだけならいいですよ。炭水化物同士ですしね。

問題はおかずです。

どうやって納豆でパンを食べろって言うんですかね？

…ま、いちごジャムでご飯も食べれないでしょうけど。

ケンカするほど仲がいいって言うんでしょうかね？雨降って地固まるかな？

仲直りした時はいつも手をつないで近所の居酒屋に行っただですよ。

ちょっと汚い店なんですけど、いいつまみが置いてあるんですよ。

特に、あの人は角煮が好きでしたね。ちびちびやりながら、ずーつと角煮。

その角煮がまたおいしいんですよ。しっかりとからしがのかったのが出てきてね…

…っと、お腹空いて来ちゃいましたね？角煮、ありますよ。

私は食べますよ。どうです？

いやいや、遠慮なさないで。

…けっこうおいしいでしょ？自家製なんですよ。

作り方にコツがあつてね。

…えっ？そういう話はいい？

わかりました。で、何の話でしたっけ？

…ああ、そうだ。死のうと想った話ですね。

確かにあのとき、死のうと想いました。

もうこの世にいてもしょうがないかなって。

睡眠薬って何粒くらい吞めば死ねるか知ってます？

よくハルシオンと吞むとか言うじゃないですか？

…私、詳しくなかったんですよ。

昔出た、「完全自殺マニュアル」とか読んでおけばよかったですね。

けど、痛いのはいやだったんですよ。包丁とかね。

だから悩みましたよ。人に迷惑をかけるのもいやだったんで。

だってそうでしょう？不動産屋さんも、自分の物件に死体があったらいやでしょう？

かといって、公共の場で死ぬのもいやでしたし。

…なんでそこまで思い詰めたかったって？

いや、だから、辛かったんですよ。

自分の身体が半分になる感じがして。生活の一部どころか、大半を占めていましたから。

知ってます？胎児って、胎盤を自分で作るんですよ。

細胞分裂をして、胎盤を作り、へその緒をつなげて自分の命を維持するんです。

だから、子どもはお母さんと同じ身体だったんですよ。

へその緒を切るって事は、身体を二つに分けること。

例えるならそんな感じです。自分の身体をまっぶたつにされた感じ。

それは、死のうと想って当然じゃないですか。

…ええ、でも、いざって時に想ったんです。

「私が死んだら、半分のあの人はどうするんだろう？」

だって、そうですね。半分になった私がいるって事は、半分になった相手もいるんですよね。

じゃあ、困るじゃないですか。あの人も。

だから、死なないことにしたんです。

ええ、生きるってすばらしいですよね。

寝て、起きて、ご飯を食べて、美しいモノを見て。

ええ、半分だったときは、それも真っ黒でしたけどね。

何を食べても味はしないし、何を見ても感動しないんですよ。

不思議なモノですね。

…ええ、今は半分じゃないです。

大体、半分食べたので、0.75つてところですかね？

だんだん世界が輝きだしたんです。今まで黒かったモノが、色めきだしたんです。

全部食べたら、もっともつと楽しい人生が送れると想いますよ。

全部食べて、早く1になりたいんですよ。

…ああ、そうだ。さっきあなた食べちゃいましたよね？

角煮。

… あ、だめですよ。私、1になれないじゃないですか？

今なら、まだ、胃にありますよね。

返してください。

あ、でも消化された分は…

全部食べちゃえばいいのか。

（後書き）

んじゃ、うんこも食わなきゃなんねーじゃん！というツッコミに対しては、「んじゃ、食べてる！」と胸を張って言いたいと思います。

…だめだこりゃ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5232o/>

男とか女とかそういう問題ではない

2010年10月26日10時13分発行